

今後の検討課題

1. 遺伝性・先天性疾患研究を目的とする研究用新規作成胚の作成を伴うゲノム編集技術等を用いた基礎的研究

(第二次報告における見解)

○科学的合理性・社会的妥当性が認められる研究課題は一定程度想定される。科学的観点からそのような研究の必要性を指摘する意見がある一方で、倫理的観点から慎重な意見も見られることから、個別の研究計画に対して適切な審査を行うことで容認しうるかを引き続き専門調査会にて検討していくこととする。

2. ミトコンドリア病研究を目的とする研究用新規作成胚の作成を伴う卵子間核置換技術を用いた基礎的研究

(第二次報告における見解)

○ミトコンドリア病研究を目的とする研究用新規作成胚（配偶子に核置換技術を用い、受精させる場合を含む。）及びその際の卵子提供に係る倫理的課題については、遺伝性・先天性疾患研究目的において研究用新規作成胚にゲノム編集技術等を用いる場合と同様に考えられるため、専門調査会において引き続き検討していくこととする。

(参考) 「ヒト胚の取扱いに関する基本的考え方」見直し等に係る報告(第二次)

胚の種類 検討対象		①基礎的研究 ※疾患関連以外目的の研究(いわゆるエンハンスメントなど)は容認しない		②臨床利用 (研究・医療)
		余剰胚 (不妊治療のために作られた体外受精卵であり廃棄されることの決定したヒト胚)	新規胚 (研究材料として使用するために新たに受精により作成されたヒト胚)	
ゲノム編集技術等	(目的) 生殖補助医療研究	第一次報告書に基づき「ゲノム編集指針」を策定 (平成31年4月公布、施行)	個別計画の審査を前提として 容認	人又は動物への胎内移植は現時点において容認しない(第一次報告書に引き続き確認) 法的規制も含めた制度的枠組みを今後検討(新たに提示)
	(目的) 遺伝性・先天性疾患研究	個別計画の審査を前提として 容認	容認可否を引き続き検討	
核置換技術	ヒト胚核置換胚については 個別計画の審査を前提として 容認	卵子間核置換胚については 容認可否を引き続き検討		

容認
 引き続き検討
 容認しない